

## 1 2. 霊の結ぶ実は真理

1. 真理とは、何か。：国語辞典をひらくと、（しんり、ほんとうのこと。正しい道理。だれもが正しいとする事実や法則。）

2. 道理とは、なにか。：ものごとの正しいすじみち。理屈。：事実とは、なにか。（じじつ、ほんとうにあったことから。現実にあることから。）：法則とは、なにか。（ほうそく、1. 一定の条件のもとで常に成立する関係。2. 必ず守らなければならない規則）：規則とは、なにか。（きそく、人のおこないや手続きなどのよりどころの規準として定めたきまり。ルール。）

3. そこでピラトが、「それでは、やはり王なのか」と言うと、イエスはお答えになった。「わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に來た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」

ピラトは言った。「真理とは何か。」ピラトは、こう言ってからもう一度、ユダヤ人たちの前に出て来て言った。「わたしはあの男に何の罪も見いだせない。」（ヨハネ 18:38-39、新共同訳）

ピラトが「真理とは、なにか」と、ただ質問しただけで、はい、これで終わりだ、と彼は思ったのでしょうか。ピラトが書いて、十字架の上に掛けさせた、罪状書きには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」となっていました。

4. この地球上には、二つの文化しかありません。ということは、世界には、真理について二つの考え方がある、ということです。上記の [1. と 2.] は、ギリシア人の真理です。三角形の内角の和は、180度である。あ、これで分かりました。ギリシア文化では、真理とは、出来事について、その知的な理解・洞察などです。NBD 1225b\_2.

5. 主イエスが、真理について証言しました。「わたしは真理について証しをするために生まれ、そのため

にこの世に來た。」ヨハネが、みことばを書くとき、かれは、旧約聖書にもとづいて考えて、書きます。

6. 創造主にして救い主である御子なる神は、人間となって、地上にお立ちになりました。「わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。」（ヨハ 1:14）

7. 真理の人が生まれました。真理が、はじめて、この地上に誕生しました。これは、さきほどのギリシア系の真理とは、全然ちがう真理です。この恵みと真理とは、旧約聖書のどの言葉であるかが分かっています。

8. 出エジプト記に出てくる神は『わたしはある』という神です。モーセが「どうか、あなたの栄光をお示してください」と言いました。そして、主は雲のうちにあって降り、モーセと共にそこに立ち、主の御名を宣言されました。「主・・・慈しみとまことに満ち・・・」（出 34:6）この、慈しみ（ヘセド）とまこと（エメト）が、新約聖書の、恵みと真理です。

9. ギリシア文化は、人間中心主義です。神々もまた、人間に仕える、たんなるイエス・マンです。もの言わぬ神々です。これとは違って、ヘブライ文化では、全く対照的に、聖書の神が、人間を創造した神です。そして、人間が死にいたる罪をおかせば、第2の機会を与えて、人間回復の計画をお考えになります。そして、この救いの計画がちゃんと動く環境をととのえるのが、契約という真理です。聖書の神は真理の神ですから、旧約聖書のクリスチャンたちもまた、真理の神に仕えて、信仰によって、神に忠誠心を表して生きました。それが、恵みと真理です。たとえば、エリエゼルが、イサクお坊ちゃまの嫁探しに旅に出て、祈ります。主人アブラハムの神、主はたたえられますように。主の慈しみとまこと（真理）はわたしの主人を離れず、主はわたしの旅路を導き、主人の一族の家にたどりつけてくださいました。そして旅の成功は、嫁側の決断にかかっていました。「あなたがたが、今、わたしの主人に慈しみとまこと（真理）を示してくださるおつもりならば、そうおっしゃってください。そうでなければ、そうとおっしゃってください。・・・」（創 24:49）